

# 壊滅の譜

天瀬裕康



## 主な登場人物

- 仲 みどり 二八歳 移動劇団桜隊女優、女剣劇出身
- 丸山 定夫 四三歳 移動劇団桜隊隊長、愛称ガンさん
- 園井 恵子 二七歳 移動劇団桜隊女優、宝塚出身
- 高山 象三 二〇歳 桜隊文芸部員、愛称シヨウちゃん
- 八田 元夫 四〇歳 演出家
- 榎村 浩吉 四二歳 桜隊事務長、本名・小室新之助
- 乃木 年雄 三八歳 移動劇団珊瑚座隊長

## その他の登場人物

- 島木つや子 二三歳 移動劇団桜隊女優
- 笠 綱子 四〇歳 事務、島木つや子の母
- 森下 彰子 二〇歳 女優
- 羽原 京子 二三歳 女優
- 小室 喜代 三六歳 事務、榎村浩吉の妻
- 三浦 政司 五五歳 同、広島寮長、広島市民
- 木村とし子 二八歳 同、炊事係
- 赤星 勝美 三五歳 移動劇団本部事務
- 僧侶 五〇歳 曹洞宗存光寺住職
- 大矢 章三 四三歳 移動劇団珊瑚座座員
- 沢 道子 二三歳 同、厳島出身
- 柳田 操 二三歳 見習士官

老人 六五歳 女優・羽原京子の父  
 老婦人 五八歳 女優・羽原京子の母  
 散髪屋主人 四〇歳 被爆者  
 敵島（現・廿日市市宮島町）の住民多数  
 暁部隊（陸軍船舶隊）の兵士たち  
 被爆者収容施設の従事者たち  
 海田市町の女主人 桜隊を接待したことがある鼻眞筋  
 尼子 敏子 敵島の女医  
 仲 友江 みどりの母  
 森下 正吉 女優・森下彰子の父  
 中井のママ ママと慕われる宝塚の大先輩  
 薄田 研二 俳優、本名・高山徳右衛門、象三の父  
 薄田のママ 研二の妻、新劇人からママと慕われる  
 佐野 浅夫 俳優  
 都築 正男 東大外科教授、放射線医学の権威  
 三宅 仁 東大病理学助教  
 鈴木 善夫 東大医学部四年生  
 太田 怜 東大医学部一年生  
 中村克郎など東大医学部の学生たち  
 東大病院の医師たち  
 東大病院の看護婦たち

## 1 メインタイトル 「壊滅の譜」

広島市中島町の平和公園

外人も交え、次々と参拝者の絶えない原爆死没者慰霊  
 碑越しに、原爆ドームの遠景が見える場所からパンアッ  
 プして、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を大写しに  
 してゆく。ナレーションもかぶせながら、この間にキヤ  
 スティングなどを字幕に出す。

ナレーション…ここは広島平和公園内の、原爆ドーム  
 や原爆死没者慰霊碑の近くにある、国立広島原爆死没者追  
 悼平和祈念館です。丹下健三先生たちの設計で二〇〇二年  
 （平成十四年）の八月一日に建てられたもので、ここには  
 多くの被爆死された人々とともに、「移動演劇桜隊」九名の  
 遺影も納められています。

移動演劇隊というのは、戦争末期に政府や軍部により強  
 制的に日本移動演劇連盟に加入させられたもので、広島に  
 は、名優・丸山定夫を座長とする桜隊と、新派・吉本系の  
 珊瑚座が配置され、中国地方を巡業するよう指令を受けて  
 いました。桜隊は広島市堀川町の桜隊寮にいたため、被爆  
 したのです。中へ入ってみましょう。

## 2 サブタイトル 「九人の遺影よ語れ」

反時計方向に回転する緩いスロープが地下へと続き、

地下二階の死没者追悼空間に至る。エスカレーターで地下一階に行くと体験記閲覧室があって、氏名と写真(遺影)を索引で出すことができる。道順にカメラを移動し、四、五名の来館者が遺影を探しているところを写し、ここまでで登場人物等の字幕を終わらせる。

ナレーション・・・ここでは參觀者が、希望の人の遺影を見ることができません。「桜隊」で索引しますと、五十首凶順に被爆死した九名を一括した画面が出ます。それでは最初の小室喜代さんから見えてゆきましょう。

### 3 小室喜代の写真

ナレーション・・・コムロ・キヨさんは、桜隊事務局長マキムラ・コウキチ夫人で、事務係として参加していました。被爆時の年齢は三十歳。被爆場所は、広島市堀川町九九番地の日本移動演劇連盟中国出張所です。

### 4 島木つや子の写真

ナレーション・・・シマキ・ツヤコさんです。本名はリユウ(笠)ツヤコで、劇団東童の出身。被爆時の年齢は二十一歳。被爆場所は堀川町で、以下、全員同じ屋敷内です。

### 5 高山象三の写真

ナレーション・・・タカヤマ・シヨウウさんは俳優・ススキダ・ケンジ(本名・高山徳右衛門)の長男で演出専攻。被爆時年齢は二十一歳でした。

### 6 沖みどりの写真

ナレーション・・・女剣劇から新劇に転じたオキ・ミドリさんです。被爆時の年齢は三十六歳。東大病院で原子爆弾症と診断されて、解剖された第一号です。

### 7 袴田トミ(園井恵子)の写真

ナレーション・・・宝塚出身のソノイ・ケイコさんです。ここでは本名の八カマダ(袴田)で登録されていますが、以後は園井を使います。被爆時の年齢は三十二歳。

### 8 羽原京子の写真

ナレーション・・・ハバラ・キョウコさんは日活の女優さんで、郷里が広島県の福山市でした。目鼻立ちのはっきりした明るい感じの人。被爆時の年齢は二十二歳。

### 9 丸山定夫の写真

ナレーション・・・座長のマルヤマ・サダオさんです。仲間内では「ガン(丸)さん」と呼んでいました。被爆時の

年齢は四十四歳。他の隊員の被爆時の住所はすべて広島市ですが、彼だけは東京になっていました。

## 10 森下彰子の写真

ナレーシヨン…モリシタ・アヤコさんも日活所屬の女優さんで、仕舞も一人前でした。しつげのよい、きりっとした娘さんで、被爆時の年齢は二十三歳です。

## 11 笠綱子の写真

ナレーシヨン…リュウ・ケイコさんは、シマキ・ツヤコさんのお母さんで、無給の衣装方兼事務員として参加しておられました。被爆時の年齢は四十歳でした。

## 12 敵島の存光寺

宮島棧橋から、徒歩約十五分の存光寺を写す。

ナレーシヨン…この九名の桜隊の人ひとが被爆死されたのですが、桜隊とは別に、八木年雄を座長とする吉本系の珊瑚座も移動劇団として、広島を中心として巡業していました。こちらは昭和二十年（一九四五年）八月の初めには、広島郊外の敵島（宮島）に疎開していましたが、八木は転居の挨拶方々、桜隊の寮を訪れております。それは舞台を終戦直前の広島市に移してみましよう。

《一九四五年八月四日》

## 13 広島市堀川町九九番地の高野邸

広島市の中心部に近い場所。桜隊が寮にしていた和風二階建ての大きな家に、珊瑚座座長の乃木年雄が、丸山と残務の相談をするために来た。（パンしながら練習場へ）丸山は元気そうに芝居の練習をしている。

乃木「ガンさん、挨拶にきたよ。移転は完了した……」

丸山「そりゃ、よかつた。残務整理か？」

乃木「まあ、そんなところだが、みんなの顔も見たくてね。」

疎開の予定はまだか？」

丸山「郊外の話が出てるが、まだ纏まらない」

乃木「急いだほうがいいぞ、広島は危ない。それに、ガンさんの体も心配だ。元気そうに練習してるが、休養が要るんじゃないのかね？」

丸山「肋膜炎はまだ治らんが、まあまあじゃあ」

乃木「（そばを通る仲みどりらに会釈して）やあ、頑張ってますね。（丸山に向かって）無理はしなさんなよ。それじゃあ私は、役所にも寄るよつなので……」

ナレーシヨン…ここから約三週間のドラマが展開されるのですが、このうちの数名とは一度と会えないことに

なるつとは、乃木には思いもよらぬことでした。

《八月五日》

14 高野邸（桜隊寮）

内部のあちこちを詳しく撮影。高野邸は日本移動劇団連盟中国支部事務所とともに桜隊の寮でもあった。一階における年配の女性の会話

小室「リユウさんは無報酬でよくなさいますわね」

笠「娘が劇団のお世話になってるので、少しでも……」

小室「ツヤコさんは子どもときからの芸達者だ、と聞いて

おります」

笠「それほどではありませんが……」「主人は事務長だから

大変でしょうね。しばらく東京ですか？」

小室「ええ、行ったり来たり……俳優さん不足で、人集めな

んですの」

15 寮の二階、夕暮れから夜

森下「蒸し暑いわねえ」

羽原「瀬戸の夕風といつのも、私の家でも同じだったわ。夕

方になると、風がピタッと止むの」

森下「そうそう、キョウコさんのご郷里は（団扇で煽きなが

ら）広島県の東の……」

島木「福山市でしょ」

森下「あーら、ツヤちゃん、いつの間に来てたの？」

島木「下にいたけど、暑いから上がってきたの。でも、風は

吹かないのね……（せわしい団扇の音）」

音響効果 午後九時二十二分・警戒警報発令、サイレン

九時三十分・空襲警報発令、サイレン

約十機が豊後水道より広島湾上空に侵入したが、数

十分後に西方に脱去、警報解除、サイレン

《八月六日》

16 寝静まった不気味な広島町

音響効果 午前〇時二十四分・空襲警報発令、サイレン

二時九分・空襲警報解除、サイレン

二時十三分・警戒警報解除、サイレン

七時十分・警戒警報発令、サイレン

七時三十二分警報解除、サイレン

17 早朝、高野邸（寮内）二階の座敷

園井恵子が寝ている丸山のところに朝食を運んで来る。

丸山「すまないねえ、いつも迷惑をかけて」

園井「今日は仲さんと炊事当番なんです」

丸山「ほう、ベテラン二人がねえ……僕も早く着替えをせんといかん」

園井「無理しないでくださいよ。座長の肋膜炎、まだ、よくなっていないでしょ」

丸山「いや、だいぶん落ち着いてきたよ」

## 18 一階の一隅

小室の部屋のままで年配の二人が立ち話をしている。

笠「……昨夜はサイレンで殆ど眠れませんでした」

小室「私も、なんだか不安で……」

笠「ご主人が東京でお留守ですし……」

小室「こちらの事務は、齊長の三浦さんがして下さいますの

で、その点は安心ですが……」

笠（落ち着かめ様子で）「私、衣装の整理をしてきます」

## 19 一階の食堂

食事を終えた島木、羽原、森下らの女優が出てゆく。

少し遅れて高山象三が食事をすませます。

高山「ごちそうさま」

仲「シヨウちゃん、演出の勉強はできてる？」

高山「まあねえ（出て行きながら）」「なにしろ、こんな時代だからなあ」

入れ違いに炊事婦の木村とし子が入って来る。

木村「ナカさん、すみませんでしたねえ。食器の後片付けまで手伝つてもろつて、あとは私がつます」

仲「じゃあ、一階に行くわ。あなたは買出しが大変よね。なにもかも手に入りにくいんだから……」

## 20 同日、八時十五分

仲が二階に上がり、丸山は二階の座敷、園井が丸山の食事を下げて階段の一番下に来たとき、閃光。

音響効果、すごい轟音、つめき声、家の焼ける音。

原爆炸裂時の惨状を写す。建造物のみならず、人的

被害著明。桜隊隊員九名全員は、広島市堀川町九九

番地、高野邸内、移動演劇聯盟中国出張所事務所兼

寮において被爆

## 21 仲みどりの脱出

仲は気を失ったが、火の気配を感じ、あたりを掻き分けて脱出した。そのあと、何度も吐く。火が迫つたので

京橋川の水中に入る。それを予品の曉舞台(陸軍船舶隊)に救われ、臨時収容所に運ばれた。ここでは、なんの治療も受けられなかった。(映像にて)

22 丸山定夫の脱出

閃光とともに天井が落ち、床に叩きつけられて失神。木材の燃える臭いが鼻を突いて意識を回復、天井の梁材を押しつけて脱出すると、あたり一面は火の海。退避予定地の比治山近くまで来ると、再び失神し昏倒。曉部隊に救助され、トラックに乗せられ海岸に出て、船で呉方面の収容所に運ばれる。(映像にて)

23 鯛尾臨時収容所

丸山が運ばれたのは広島島の東南、安芸郡の鯛尾(現・広島市安芸区坂町鯛尾)の、海岸近くの倉庫だった。

丸山「ここは、どこですか?」

警備員「タイピというところですよ」

丸山「身動きできないんです。少し向きを変えてもらえませ

んか……」

警備員「(丸山の体を動かし背中を見て)傷がありますね。他の収容所へ移って頂くかもしれません」

24 園井恵子と高山象三の脱出

倒壊し燃え始めている高野邸から園井恵子が這い出ると、少し離れたところに高山象三が脱出しかけている。

園井「シヨウちゃん、頑張つてえっ!」

高山「大丈夫……(やっと這い出し)そら、抜け出たぞ」

園井「早く逃げましょう!」

高山「避難場所はヒジヤマだったよね」

25 広島市比治山公園

園井恵子と高山象三の二人は、火と煙と黒い雨に阻まれながら、廃墟の中の残った橋を渡り、途中で拾った男物の靴を二人が片方ずつ履き、午後、やっと比治山へ逃げた。ここも混雑を極めている。やがて夕刻

高山「桜隊の人は来ていないようです」

園井「みんな駄目かもしれない……」

高山「このあたり、春は桜の名所だったのに、ひどいもんだ」

園井「シヨウちゃん……(なにかを思い出したように)カイヤイチには、このまえの芝居のとき食事の接待を受けたフ

ァンの家があったわね」

高山「そうだったなあ。国鉄の駅で二つ目か……行くとする

ば歩くしかなさそうです」

園井「今夜はここで野宿して、明日は行ってみましょう」

《八月七日》

26 宇品の臨時収容所

仲みどりは、治療もなく寝ているだけだったが、ラジオなどのニュースには気をつけている。

仲「(隣に寝ている被爆者に)明日、東京行きの列車が出るんですけど、ここでは履物を頼むのは無理でしょうか？」  
被爆者「そりゃあ、ダメでがんすよ」

他の被爆者「少し先にのう、紡績会社の女子寮があつて、そこが船舶司令部の病舎になつたそうじゃ。そこなら係員が沢山いるけん、なんとかなるかもしれんのか……」

27 海田市町、鼻肩筋の家

女主人「私もはずつと滞在して頂きたいのですが、神戸へ行かれるのなら、明日の復旧一号便は逃さないほうがよいかも知れません」

高山「お世話になりました。広島から乗るんでしょうか？」  
女主人「カイトイチは山陽本線と呉線が分かれるところですから、ここから乗れるでしょう」

園井「あつかましいお願いばかりで恐縮ですが、手続きのことなんか、確かめて頂けると有り難いんですが……」

女主人「承知しました」

28 東京 夜

座付きの脚本家で演出家の八田元夫が、桜隊事務長・植村浩吉に電話している。

八田「広島行きの切符が手に入った。明日、広島へ戻ろつ」  
植村「有難つ。気がせきますよ……」

《八月八日》

29 宇品の臨時野戦病院病舎受付

午前九時過ぎ、軍隊用天幕を引きちぎつたものを身に纏つた仲みどりが、素足で受付に現れる。

仲「私、移動劇団桜隊のナカ・ミドリと申します」

柳田見習士官「胡散臭げに見ながら……で、用件は？」

仲「今日の上り復旧第一号で、どつしても東京に帰りたいんです。だから履物を下さい」

柳田「復旧一号の出発は昼ごろと聞いておる。それに、ここから広島駅まで……間に合つかね？」

仲「私、以前は女剣劇をやっていたことがあるんです。大丈夫、お願いします」

柳田「仲の氣迫に庄せられたように、よし、分かつた。こ」



で待っていないかい」

柳田が走り去り、仲は他の兵士から乗車証を買ってから腰を下ろす。柳田が息をはずませて戻って来る。

柳田「藁草履を差し出して、これで我慢してくれ」

仲「有り難うございました」

言い終わるや否や駆けるように歩きだす。カメラが仲を追つ。仲は宇品線の線路に沿って広島駅へと急ぐ。

仲「死ぬもんか！ こんなことで死んでたまるか……」

### 30 上り復旧第一号列車の中

出発は結局、午後四時四十二分になった。沖は列車の通路に坐っていたが、疲労がつよく、横たわってしまった。海田市からは園井と高山が乗り込んでくる。

園井「シヨウちゃん、もう大丈夫よ。神戸に着いて、ナカイのママのところへ行つたら、なんとかなるわ」

高山「うん、でも、ガンさんや他の連中は、どうなったんだらう？」

ナレーシヨン…この列車には、仲みどりも乗っていましたし、同時刻に下り列車では、八田元夫と樺村浩吉が広島に向かっています。お互いに気付きませんでした。

### 《八月九日》

### 31 神戸の中井邸 早朝

園井恵子（本名・袴田トミ）は高山象三を連れて、六甲山麓の中井家に転がり込む。

中井「まあ、八カマちゃん……広島だと聞いて、心配してたのよ」

園井「ママ、私たち助かったの。こちらはススキダ先生の坊ちゃんのタカヤマ・シヨウゾウさん……」

中井「そうですね、お父さんに似てらっしゃるわ。さあ、すぐ上がって下さい」

高山「ご迷惑おかけします」

中井「そんな遠慮はしないでよ。とにかく、よかった」

### 32 鯛尾の収容所 昼まえ

死亡者や退所者が続き、同室のメンバーも変っている。

隣の被爆者は宮島に帰ると言つ。

丸山「すみませんが、宮島の存光寺に寄ってもらえませんか？」

被爆者「ええですよ」

丸山「あそこに劇団の仲間が泊まっているので、このメモを渡して頂きたいのです」

タイピにいる。レンラクたのむ。ガンと書いた

三センチ幅に千切ったボール紙の切れ端を差し出す。

33 宮島の存光寺、正午過ぎ

乃木座長や大屋章三らの珊瑚座一行は、山陰巡演から宮島の存光寺に帰り、留守番をしていた赤星と相談

乃木「広島はひどいもんだが、桜隊の情報はどうかね？」

赤星「消息は掴めていないんだ」

大矢「じゃあ、探しに行きましようよ」

《八月十日》

34 杉並区天沼、仲友江の家

九日を車中で過ごした仲みどりは、十日の零時過ぎ

東京に着き、省線で荻窪で降り、異様な風体のまま、杉並区天沼の実家に辿り着く。

仲「泣き伏して」おかあさん！」

35 高野邸付近の焼跡、昼過ぎ

珊瑚座の男性五名が、広電宮島線（郊外電車）の己斐駅（現・西広島）で降り、市内電車の軌道に沿って高野邸（桜隊寮）の近くに行く。一面に白い灰。頭に包帯を巻き杖をついた男が通りかかる。

乃木「すみません。桜隊の人を見られませんでしたか？」

負傷者「ああ、あなたたちは、劇団の人じゃね」

大矢「もしかして、あなたは……散髪屋さん？」

負傷者「そうですよのう。三軒隣の……あなたたちは疎開さ

れたが、桜隊はのう……」

乃木「ダメですか？」

負傷者「いいや、若い男と女優さんが、抱き合つて逃げて行

くのを見ましたけん……」

大矢「どっちの方角ですか？」

負傷者「火の中じゃけえ、はっきりは分かんが、比治山へ

逃げることになつたりしましたよのう」

乃木「名前は分かりませんか？」

負傷者「男は、たしかタカヤマさんじゃ。散髪したとき、脚

本を書くんじゃ言つて、いろいろ質問されてのう……女

は、パンツマの『無法松の一生』に出た人じゃ」

大矢「有り難う。散髪屋さんも元気でね」

36 神戸の中井家の二階

一階で寝ている高山象三の体調がおかしい。辛そうな表情。階下で中井ママと園井の会話

園井「あの子は、あまり丈夫じゃあないから……」

中井「八カマちゃんはどうなの？ あら失礼。あなたはも

「う大女優のソノイ・ケイコなんだから、芸名で呼ばないといけないわね」

園井「いやねえママ、そんなこと……」

37 堀川町付近、午後

「昼過ぎに広島へ着いた八田元夫や榎村浩吉は乃木らより遅れて寮の焼跡へ行くが、手掛りなし。」

八田「これじゃあ、宮島へ行ってみるしかないね」

榎村「そうしましょ」

38 存光寺の庫裏、夕方

八田と榎村が珊瑚座の連中と話していると、赤星が丸山のメッサージを受け取った、と言って入って来る。例のボール紙の切れ端に書いたメモである。

八田「今日はダメだから、明日さっそく行ってみるよ」

乃木「タイビならウジナからの船のほつが、陸路で大回りするより早いかもしれません」

榎村「私もタイビに行きましょ」

乃木「私たちはヒシヤマ方面を探してみます。なにか手掛りが見つかるともしれないんで……」

《八月十一日》

39 鯛尾臨時收容所、午前・午後

八田と榎村は手分けして收容者名簿を探すが、丸山定夫の名前はない。

八田「ここにいる、という連絡が入ったのですが……?」

係員「転送された人もいますから、その名簿もご覧になって下さい」

出された別の名簿を丹念に見てゆく。

榎村「ありました! 小屋浦国民学校になっています。ここは遠方ですか?」

係員「同じサカ町の中ですから、それほど遠くではありませんが……どこまで連れて帰られるんですか?」

八田「宮島です」

係員「そいじゃあ無理でしょうのう。国鉄ならサカの次のコヤウラで降りりゃあええが、まだ運転が少ないけえ」

榎村「顔だけでも見て来ましょつか……」

40 神戸の中井邸

高山象三の歯痛がひどいため、園井恵子が高山をリヤカーに乗せ、歯科医院に行つて来る。

園井「リヤカーから降ろしながら(処置してもらったから、これで楽になるわよ)」

高山「(玄關からは入りながら) なんだか不安だよ」

41 比治山方面の珊瑚座の連中

手掛りなし。

乃木「これだけ探しても分からないのだから、方針を変えんといけんかなあ」

大矢「堀川町の廃墟が気になります。遺骨でもないか……」  
乃木「確かめる必要はあるねえ」

42 小塚浦国民学校、夕刻近く

一階の一番奥に丸山定夫を見付ける。

八田「ガンさん、俺だよ。分かるか、ハッタだ。マキムラも来てるぞ」

丸山「う、う(言葉にならぬ声で)うっ……」

榎村「丸山さん、起きられますか?」

丸山「う、う……」

榎村「(八田に) こりゃあ無理みたいですね」

八田「うん、ガンさん、タイビのメモを見て来たんだ。タイビで時間を取ってしまった。明日は早く用意して来るから、待っていてくれ」

榎村「パンツも持って来ますよ」

丸山「(意識朦朧の感じで) う、早く、早く……」

《八月十二日》

43 宮島棧橋、朝

緩んだゲートルを巻き直しながら、乃木が大矢と話している。

大矢「何か探し出したいですね。みんなピカドンと呼んでいます。普通の爆弾、しゃあない。軍医が死体解剖をしたそうですよ」

乃木「十日に京都大学の調査団が広島入りして、翌日、放射能測定用に採取した土を、京都に運んだそうだ」

大矢「元気だった人が、ポツクリ死んだりしてますよ」

乃木「ガンさんは今日、ハッタさんが連れて帰る予定だがね……」

44 杉並の仲の実家、午前

仲みどりが、音読しながら葉書を書いている。

仲「……あの地獄からは逃げ出しましたが、他の人たちが気がかりです……」

モノローグ… そつだ、水木洋子さんにも出しておきますよ。シヨウちゃんのお宅にも、お伺いしておこうかしら……。

45 宮島の存光寺 夕刻

丸山定夫が、八田と榎村に両肩を支えられながらやってくる。昨日より元気な感じ。

丸山「お世話になります。僕だけ生き残って申し訳ない」

赤星「今日入った目撃情報だけど、桜隊の男のような女優さんが、

八田「そりゃあナカさんだろう。きっと、他にも生き残ってる者がいるぞ」

八田「間に入れて入ってこれ、兄が使っていたコカタですが、よく洗ってありますから、お使い下さい」

乃木「サウ・ミチコさんはね、うちの新しい女優さんですが、この島の出身なんで、なにかと助かっています」

丸山「(一同に) いろいろ有り難う」

八田「今晚は布団に寝られるぞ」

《八月十三日》

46 杉並の仲の実家、朝

仲みどりが机のまえで、ぼんやり考えている。

モノローグ：私は一人で逃げ出してきたけど、丸山さんや他の隊員たちはどうして居るだろうか？ ショウウちゃん

んの家は荻窪だったから、なるべく早く行ってみよう。でも、どうもシャンとしない。

47 高野邸跡 昼前

珊瑚座の男たち五人と桜隊の榎村が、スコップで白い焦土を掘り返している。

大矢「(布切れ様の物を引っ張りながら) なにかあるぞ」

乃木「死体が出るかもしれない。そっと掘ってごらん」

榎村「(半焦げの大男の死体を見て) こりゃあ寮長のミウラさんじゃ。南無阿弥陀仏……」

乃木「まだ、他の人もいるんじゃないかな。ひとまずミウラさんを横に安置して、手で掘り続けてみようよ」

六人が別々に手で掘ってゆく。大広間を掘っていた乃木と、自分のいた部屋の跡を掘っていた榎村が、相前後して声を上げる。

乃木「骨があったぞ。(集まった連中に向かって) 髪に刺すピンもだ！」

榎村「こっちにも、ありました。これは女房の骨です。コム

ロ・キヨの骨です。ピンもありました」

乃木「(真ッ青になっている榎村を見て) マキムラさんは一休みなさって下さい。私たちは木を探して、ミウラさんのご遺体を、茶毘に付しましょう」

榎村は少し離れた場所に、へたへたと腰を下ろす。その鳴咽が聞こえる。

大矢「ここにもありました。玄関のところですよ」

乃木「ミウラさんを別にして、全部で六人の骨だな。普通に焼き場で見ると比べると、ひどく量が少ないね」

大矢「マキムラさんの奥さんは、少し離れた場所ですね」

乃木「あれはマキムラ夫妻の部屋跡だ。他の五体は輪になっているから一緒にいた……ナカさん、ソノイさん、タカヤマ君は目撃情報があるから、ここにはいない」

大矢「とすれば、シマキさんとリュウさんの母子、モリシタさん、ハバラさん……じゃあ、もう一人は？」

乃木「炊事婦のキムラさんだろ」

#### 48 高野邸跡 火葬の火

三浦齋長を茶毘に付す火が燃えている。退院が小さな壺を三つ拾って来た。一つは榎村夫人・小室壺代さん用、もう一つは三浦齋長用に残しておき、やや大きめの壺に五人分を入れる。

一同合唱「南無阿弥陀仏……」

このとき、遠くに二人の人影。とほとほと近づいて来る。ゆつくりズーム・アップ。

#### 49 茶毘の火が続く廃墟 老夫婦

紋付を着た老いた男女。

老人「桜隊の方は、おられませんか？」

榎村「気を取り直して」桜隊事務長のマキムラと申します」

老人「ハバラ・キョウコの父でがんです。福山から来ました」

老婦人「……で、キョウコは？」

榎村「残念ながら……私は妻を、ここで失いました」

乃木「骨の入った壺を見せながら」ここで亡くなられたのは確かですが、どれが誰かは分かりません」

老人「覚悟はしてりましたが、婆さんが、娘が呼んじよる」と言つもんですけえ」

老婦人「皆さんのオコツを少しずつ、分けて頂けませんか？」

……一緒に供養させて下さいませ」

#### 《八月十四日》

#### 50 仲みどりの部屋 昼

ナレーション… 荻窪の薄田研一は当局から睨まれていたので、本名の高山徳右衛門を使っていました。仲が訪れたときには、高山家三の消息は伝わっていませんでした。帰宅後、仲はあれこれ思い巡らせます。

モノローグ… 私はずっと、自分勝手に生きてきた。女

剣劇をやり、喫茶店を開き、ダンサーになり、左翼劇団にも入ったが、私はなにをしようと思ったのだろうか？

51 存光寺の六畳の間

榎村は珊瑚座の連中と一緒に広島に行き、仲みどり、團井恵子、高山象三らの消息を探す。八田が丸山の看護に残っている。(映像にて)

音響効果 空襲警報のサイレン、しばらくして解除

八田「長崎にも原爆が落ち、ソ連が参戦したんだから、もうお終いだな」

丸山「もっと早く手を上げてくれたら、こんなに沢山死なんでもよかったのになあ」

八田「どうにもならん国さ。広島に来るまえにもな、新宿には本庁の特高警察がつけてたよ。なにしろ俺は札付きの保護観察対象者だからなあ」

丸山「僕は住所を東京のままにしてるんでね……他の連中は皆、広島市堀川町九九番地」にしてるのに……」

八田「それはそれとして、動けるよつなら東京で治療したほうがいいぞ、赤星君の意見じゃが……」

丸山「そりゃあ、できん。隊員の話がつかめんに、広島

から離れるわけにやあいかん！」

52 存光寺の裏庭 午後

丸山が井戸水を汲んで頭からかぶっている。

八田「おいガンさん、そんなことをしちゃあ、いかん。ちゃんと寝ときなさい」

丸山「こつすると気持ちがいいんじや」

八田「バカなことを言つな！」

その夜から丸山のシャックリが始まる。

《八月十五日》

53 玉音放送後の町の状況

榎村が丸山の看護に残り、八田は乃木たちと連絡船に乗って、収容所で聞き込みをする。正午に玉音放送。各所で、いろんな反応。

被爆者「なんかいのう、さっきの放送ちゆうなあ？」

八田「負けたんでしょう。日本が負けたという放送らしいですよ」

54 芸備線沿線の田舎 午後

乃木と座員の一人が、知人宅で卵十個と野菜を分けて

もろい。

乃木「これでガンさんの元気がつくぞ」

近所の子どもたち「戦争がすんだんじゃ」「日本が負けたのよ」

「兵隊さんが騒いどるぞ」

乃木「気が抜けたよつに」やっぱり負けたんだなあ……」

55 存光寺の六畳の部屋 午後三時頃

丸山の部屋に、みんな集まっている。

赤星「マルヤマさん、日本は日本無条件降伏したんですよ。」

「これからは自由に、好きな芝居ができるんですよ」

丸山「うう……（応答鈍く、シャッキリが続く）」

56 仲みどりの部屋 午後

仰臥しラジオを聴いていたが、スイッチを切って、考

え込む様子。

モノローグ…戦争が終わった。でも桜隊が、みんな死んでしまったのなら、私はいいたい、なにをしたらよいのだらう？ どうも体調がおかしい……そうだと体を治そう。私は女優なんだもの。

《八月十六日》

57 東大構内、朝

仲みどりと母親が東大安田講堂のあたりを歩いている。

当時は夏休みなし。学生(中村克郎)に附属病院を尋ね、

その方向に行くが、よく分からない。

太田「どっかなさいましたか?」

仲の母親「娘は広島で被爆しまして、調子がよくないので診察を受けたのですが、どこに行けばよいか分からない

ので……」

太田「僕はまだ学生ですが、広島のことば聞いています。負

傷はなくても、放射線障害のことなら都築外科がよいで

しょう。ご案内しましょうか?」

仲「お願いします」

58 附属病院内

太田と仲が医局長室に行く。

太田「ススキ先輩、この方は広島で被爆されて、体調不良を

訴えておられます。診てあげて下さい」

鈴木「分かった……ちょっと体を診させて下さいね」

仲「はい」

鈴木「目の、体を手早く診て、太田に」先生方がみな駆り

出されてテントコマイだ。検尿をしてくれんかね。私は

末梢血の検査をしよう……」



59 都築教授の部屋

鈴木が一生懸命説明している。

鈴木「もちろん再検査しました。試薬も新しいのに取り替えたり……でも、やっぱり四百しかないんです」

都築「一〇分の一以下じゃあないか……」

鈴木「そうです」

都築「これは大変なことだぞ……すぐ入院して頂きなさい」

60 存光寺の六貴 夕風のあと

丸山のシャックリがちよつと和らぐ。体温は四〇度。

榎村「(丸山に)ちよつと一休みしてきますが、隣の部屋ですから、辛くなったら呼んで下さい」

丸山「うう……」

疲労のたまっていた榎村は眠りこける。

61 存光寺の六貴 夜遅く

八田が帰ってくる。虚空を掴むように両手を挙げ、右目を開き口を開け、悶絶している丸山。補充の男優が丸山の様子がおかしいので乃木座長を起す。

乃木「(慌てて)ガンさん、ガンさん!(脈を触って)マキムラさん、ガンさんが死んでるようっ!」

榎村「(部屋に飛び込んで来て)さっきまで息をしてただけど

……先生を呼ばなきゃあ!」

赤星「任職と私が行って来ます」

62 同じ部屋 多人数

赤星が、女医・尼子敏子を連れて来る。虚空を攫んで挙げていた両手は降ろしてある。

尼子「(簡単に診察を済ませ時計を見て)ご臨終です。死後強直が始まっていますから、死亡時刻は午後一〇時三〇分……すぐ診断書を取りに来て下さい」

赤星「はい。お供します」

尼子「それから、ここは神の島なので、仏教徒がなさるような火葬場がありません。舟で本土に運ぶ手筈も、しとかれたほつがよいでしょう……」

音響効果 本堂のほつから任職の読経と木魚の音。

《八月十七日》

63 宮島棧橋から少し外れた海岸、朝

榎村と珊瑚座の若い男一名が、丸山の棺を伝馬船に乗せ、一人が櫓を漕いで、本土の宮島口に向かう。

珊瑚座の男「ハッタさんらは連絡船で渡って、向つて待つと

られるんですね」

榎村「そうです。君たちにも苦勞をかけるね。渡ってからもお棺を担いで山道を登るのは、しんどいぞ」  
珊瑚座の男「大丈夫ですよ」

64 都築外科三七号、昼まえ

仲みどり増悪、破傷風血清2cc注射

清水「ナカさん、お願いがあります」

仲「なんでしよう?」

清水「すみませんが、明日、臨床講義に出て頂けないでしょうか」

づか

仲「私、どんなことを?」

清水「寝ているだけで結構です。顔は見られませんがね」

仲「それは構いませんけど……いま思い出したのですが、

半年前に痔が出ました。関係あるでしょうか?」

清水「それは関係ないでしょう」

仲「今朝、髪の毛が抜けたんですが……?」

清水「抜けた毛は集めておいて下さい。調べてみます」

65 神戸の中井邸、昼過ぎ

高山象三の体温上昇、ジフテリアと診断される。一階  
へ消毒液を置く。

中井のママ「象三さんのご自宅へは、今朝も電報を打ったけ

ど、手応えがないのよ」

園井「お手数をお掛けしますが、なんとか知らせねば……」

中井のママ「あんたも食欲がないようね……調子がわるいの

と違っ?」

園井「少し熱があるみたい……」

《八月十八日》

66 都築教授の臨床講義

仲みどりが運搬車に掛けた赤い毛布の上に横たわり、

赤い毛布を被って入って来る。中村克郎らが聴講

都築「本日の講義は、世界で最初にして、絶後であるべき原

子爆弾症についてであります。(仲のほうを向いて)気分

はどう? 大丈夫?」

仲「はい(と頷いている感)」

都築「このクランケ(患者さん)は、八月六日に広島で新型

爆弾の攻撃に遭われ、倒壊した建物の下敷になりました

が、脱出し、十六日に入院して頂きました。最初の診断

は全身擦過傷でしたが、ワイセ(白血球)が一立方ミリ

メートル当り、四百しかなかったからです。普通は六千

から八千くらいですね。盲腸とか肺炎になると二万を越

しますが、四千以下になると、抵抗力がぐっと落ちます。それが、たったの四百になったのです。新型爆弾、つまり原子爆弾のせいには違いありません……」

67 存光寺での相談

丸山定夫の葬儀後、桜隊・珊瑚座合同での広島探索は徒勞に帰し、庫裏に集まって相談中、住職も顔を出す。

住職「これだけ皆さんが探されたんじゃけえ、広島付近にやあ、おられんじやあないですかのう」

赤星「東京に帰った者もいます。今日、荻窪のタカヤマ・シヨウゾウさんのお父さんから連絡があつて、ナカ・ミドリさんが尋ねて来られた、と……」

住職「ほいじゃあ私は、これで」

樫村「有り難うございました」

八田「住職が出てゆく……私の勸だけど、ソノイさんは神戸じゃないか、といつ気がする。あそこには六甲の家とか、神戸の母さんとか言つて慕つてゐる宝塚時代の先輩がいるんだ」

樫村「タカヤマのシヨウちゃんは？」

八田「多分、一緒だろう」

樫村「彼が東京に帰つていないということは、重症で、神戸から勤けんのじやあないか？」

八田「とにかく明日行つてみるよ」

《八月十九日》

68 神戸の中井邸、二階 午前

園井恵子が三九度の発熱で寝込んだので中井のママが高山象三の看護をしている。

中井「シヨウちゃん、さつき、おじさんとおばさんが見舞いに来られたのよ。そちらからも連絡をとつて下さるから、ご両親もすぐこられるわ」

高山「(うつろな目で) ああ」

中井のママはそつと襖を開けて、隣の部屋の園井恵子のところに行く。

中井「シヨウちゃん、よくないようね」

園井「ママ、ごめんなさいね。迷惑かけちゃって……」

中井「そんなこと、気にしないで……」

69 都築外科三十七号室 午後

仲みどり増恵。コンムニン(免疫増強剤)等を注射。都築「きのうは有り難う。疲れなかつた？」

仲「そんなことありません。でも私、治るのかしら？」

都築「日本の医学の名譽にかけて、最善を尽くすから、君も

頑張つて下さい」

70 中井邸の玄関、夕刻

玄関に立つ八田元夫。中井ママが小走りで来る。

中井「ハツタさん、ハカマちゃんがお待ち兼ねよ」

八田「やっぱり、ここだったんだなあ。シヨウちゃんは？」

中井「それが、よくないの。さあ早く、早く……」

《八月二十日》

71 都築外科三七号室、午前

看護婦が検温に廻つて来る。

看護婦「ナカさん、検温させて下さいね」

仲「私、どうなるんでしょう？ とても不安だわ。気が狂

いそう」

看護婦「熱が高いから苦しいでしょうが、あとでリンゲルや

輸血をしますからね」

72 中井邸の二階、正午過ぎ

高山象三が寝返りをうちながら、つぶ言を繰り返して

いる。

高山「みんな、どこへ行ったんだ？」

八田「みんな、ここにいます」

高山「大きな息をして」あめ……」

ガクツとなったので八田が脈に触れよつとすると、止まっている。八田は象三の両手を合掌のように胸の上で組み合わせ、そつと階下に降りて行く。

73 中井邸、一階のママの部屋

八田が涙ぐんでママと話している。

八田「シヨウちゃんのお通夜は、ハカマさんには知らせたくないんで、聞こえないようにしたいんです……」

中井「お経は焼場で、とお願ひしましょう。それにしてもお父さんのススキダ・ケンジさん、なん度電報を打つても、

応答がありませんの、もしや、なにか……」

八田「いや、それはいいでしょう。ナカ・ミドリさんが、荻

窪のタカヤマ家を訪れていますから」

《八月二十一日》

74 中井邸の玄関、昼過ぎ

高山徳右衛門（芸名・薄田研二）夫妻が、悲痛な面持

ちで現れる。

徳右衛門「息子がお世話になりました……遅くなって、すみ

ません」

中井「こちらこそ、申し訳ございません。たった今、ご遺体を六甲の火葬場へ運び出したところです。大八車ですから、急げば追いつけるかも……」ご挨拶はあとで……」

高山夫妻「それでは、あとで……」

75 都築外科三十七号室

森下彰子の父・正吉が見舞いに来る。仲は苦悶激しく

看護婦が三人がかりで抑えても、撥ね退ける。

看護婦「こんな状態ですから、長居はされませんよ」

庄吉「分かりました。私の娘は即死でしたが、むごいことですよ」

76 六甲の火葬場

お棺に火をつけたところ。

徳右衛門「シヨウソウー」

高山夫人「シヨウウちゃんー」

八田が傍で合掌している。神戸の市街地も焼野原。

77 中井家の座敷 午後

高山徳右衛門・薄田ママの夫妻が中井ママたちと話している。

中井ママ「ご遺体は、見られないほうがよかったですけれども、せんでいもでしたから」

徳右衛門「それでは早速ですが、私は骨壺を持って帰りますので……」

薄田ママ「私は残って、ソノイさんの看護をさせて頂きますよ」

78 中井邸の二階 午後

薄田ママが、園井恵子の左腕の腫物に注射針を立てると、黒褐色の血膿が出る。彼女は築地小劇場以来、全新劇人のママ的存在だったが、以前は看護婦だった。

薄田ママ「これで楽になるわよ、八カマちゃん、ソノイ・ケイトね……」

79 日没時、園井恵子死す

その部屋で通夜することになる。

中井ママ「八カマちゃんの郷里は若手桌で遠いから、ひとまずここで、葬式をしてあげましょね」

薄田ママ「お手伝いさせて頂きます」

八田「薄田ママに」ナカさんがお宅に伺われたときは、お元気でした？」

薄田ママ「はい。でも、そのあとすぐ、東大の附属病院に入

院されたそつです。面会謝絶になったとか……」

《八月二十二日》

80 東大医局カンファレンス 午後

清水たちが症例検討をしている。

医局員A「看護婦さんも困っているようですね」

清水「なにしろ力が強いんで、抑えても撥ね返けるんです。

それで輸血も困難です」

医局員B「面会謝絶が出てありますね」

清水「女優さんなんて、たくさん来られると迷惑です。伝染

病ではないと思いますが、白血球減少のため抵抗力が落

ちていますから、外から雑菌を持ち込んで困ります。

それで特別の人だけにしていますが、全面禁止にしな

いといけないでしょう……」

81 都築外科三十七号室 午後、同じころ

俳優の佐野浅夫が仲を見舞つ。

看護婦「先生から注意があつたと思いますが、精神状態もよ

くありません。狂騒状態が出ましたら、あのインターフ

ォンで、すぐ詰所に連絡して下さい」

佐野「分かりました。古い仲間なんで、一旦だけ……」

そつと、ベッドに近付き、凄惨な顔貌にたじろぐ。

佐野「ナカさん……」

仲みどりは天井を睨んだまま、返事なし。

佐野「(独白のように)こりゃあ、見舞客は来さんほつが

いな……」

《八月二十三日》

82 東大外科病棟詰所 午前

看護婦が忙しく往き来している。清水が片隅で検温記

録を眺めている。ページを捲りながら、ナレーション風

に清水の流れる。

清水「高温持続、頭部の脱毛著明、全身の出血傾向、膿胞多

数……治療薬なし……」

83 都築外科三十七号室 午後

仲みどりが輾転反側、時折つわ言、うめき声。

仲「(モノローグ風に)……辛い……ノドが痛い、体が痛い

……もう死んだほうがいい……そつだ、解剖してもらお

つ。どつが、どつなっているのか？ 早く解剖してよ……

……そつても辛い……」

84 仲友江の家夜

榎村浩吉から電話

榎村「みどりさんのご容態、いかがでしようか？」

友江「よくないようです。完全に面会謝絶となりました」

榎村「そうですか……」

《八月二十四日》

85 都築外科三十七号室、昼まえ

看護婦が検温に来る。体温四〇・４度、脈拍一五八なるも、一般状態は、いつも通り。

清水「ナカさん、食事に行ってもいいかい？」

仲「(かすかに首を縦に振って)ええ……」

清水「(看護婦に)悪くなったらすぐ帰るから、食堂に連絡してよ」

彼らが出て行ったあと、仲は天井を眺めながら、半ばうわ言、半ばモノローグ風に訴える。

仲「こんな爆弾、落としたりやつも、落とさせたやつも憎むわ。この世には、カミもホトケもないのよ。そんなもの欲しくはないわ。要らないわよ。……私は女優なの。(ベッドの上)起き上がりかけて滑り落ちる(……私が欲しいのは観客だけ……)」

先刻の看護婦が跳んで入る。

看護婦「どつしたの？ ナカさん！ (顔をドアから出して)

応援頼むわ。先生に電話して！」

86 同じ部屋、昼過ぎ

清水や年配の医師が駆け込む。すでに心肺停止。

清水「間に合わなかったか！ ごめんね、ナカさん」

年配の医師「苦しかったらうなあ……死亡は午後零時三〇分ですな。ご遺志に沿って、解剖させて頂きましょう」

清水「はい……」

87 病理解剖室の状況

ナレーション……ナカ・ミドリさんの解剖が始まったのは、死後一時間の午後二時三〇分からでした。

依頼者は都築外科、執刀者は三宅助教です。ここは一部が階段教室になっており、医局員や学生が多数見学しました。この解剖には多くの重要な所見が含まれており、ここから原爆医学が始まった、とも言えるでしょう。

88 広島での解剖、原子野の写真

ナレーション……じつじつと、これまで広島でも解剖がなかったわけではありません。すでに八月十日陸

軍軍医少佐・山科清は、似島陸軍検疫所において被爆死者を解剖しました。十日に広島入りした京大の第一次調査団は、その日から十二日にかけて、被爆死体を三体、詳細に解剖しましたが、死に至る臨床経過は不明でした。

89 仲みどりの病理標本

ナレーション・・・その点仲さんは被爆状況から臨床経過もすべて分かっているのです、まことに貴重なものですよ、女優・仲みどりは、フォルマリン漬の標本となっても、なお多くの人に、原爆の悲惨さを訴えているようです。

90 八月二十九日の新聞等

ナレーション・・・仲さんの死後、東京帝国大学では都築博士を団長とする調査団を組織し、二十九日、広島へ行きました。この日の「朝日新聞」は、「医学も揺らぐ原子爆弾の惨」として彼女の死などを報じましたが、九月十九日、連合国軍総司令部はプレスコード（新聞準則）を出し、殊に原爆関係の報道は厳しく取締まられました。

91 再び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

ナレーション・・・しかしプレスコードは、一九五二年四月の対日講和条約により失効し、二〇〇六年七月には、原

爆死没者追悼祈念館に、九名全員が登録されました。彼らは他の遺影とともに、核兵器廃絶を訴え続けるでしょう。

完

\*\*\*\*\*

1 一般の人にも読み易いように、略語は避けました。

2 多くの文献中、特に左記のものを重視しました。

八田元夫『ガンマ線の臨終』（一九六五年七月、未来社）

江津秋枝『桜隊全滅』（一九八〇年八月、未来社）

青木箏子『仲みどり』をさがす旅（二〇〇七年七月

河出書房新社）

乃木年雄「乃木手記」（未刊、広島公文書館蔵）

『広島原爆医療史』（昭和三六年八月、非売品）

3 太田怜博士に関しては、従来の本では、「東大医学部三年」となっていますが、私信により、「二年」としました。他にも多くのことを教えて頂きました。

4 桜隊の顕彰には、井上邦枝氏（演劇鑑賞組織広島市民劇場事務局長）や亀岡恭二氏（同、前事務局長）が尽力され、原爆死没者追悼祈念館への桜隊全員登録は、富永雅美氏（広島市民劇場専従）のご努力によりです。